

地域包括支援センターの運営状況について

令和2年度 白岡市地域包括支援センター 実績報告書

～総合相談業務～

ぽっかぽか	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話	50	49	79	102	75	110	120	63	77	81	58	105	969
来所	4	5	7	7	3	5	12	5	5	1	4	8	66
訪問	14	19	34	32	18	26	28	13	12	17	14	31	258
その他(文書等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	68	73	120	141	96	141	160	81	94	99	76	145	1,294
ウエルシア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話	18	18	20	11	12	30	20	20	11	12	14	17	203
来所	32	22	19	17	20	16	23	8	9	14	17	18	215
訪問	27	21	21	14	33	17	30	14	27	23	23	24	274
その他(文書等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	77	61	60	42	65	63	73	42	47	49	54	59	692
合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
電話	68	67	99	113	87	140	140	83	88	93	72	122	1172
来所	36	27	26	24	23	21	35	13	14	15	21	26	281
訪問	41	40	55	46	51	43	58	27	39	40	37	55	532
その他(文書等)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計	145	134	180	183	161	204	233	123	141	148	130	204	1,986

～成年後見制度～

ぽっかぽか	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
成年後見相談(実)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	0	4
成年後見相談(延)	0	0	0	0	0	0	2	0	0	1	2	0	5
ウエルシア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
成年後見相談(実)	4	2	0	2	2	1	2	2	1	2	1	1	20
成年後見相談(延)	10	2	0	3	2	1	3	3	4	3	1	3	35
合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
成年後見相談(実)	4	2	0	2	2	1	3	2	1	3	3	1	24
成年後見相談(延)	10	2	0	3	2	1	5	3	4	4	3	3	40

～虐待～

ほっかぽか		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談	新規(人)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	継続(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延(回)	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
訪問	新規(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	継続(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延(回)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
立入につなげた件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急措置		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ウエルシア		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談	新規(人)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
	継続(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延(回)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
訪問	新規(人)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
	継続(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延(回)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
立入につなげた件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急措置		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
相談	新規(人)	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	0	4
	継続(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延(回)	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	0	4
訪問	新規(人)	0	1	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	3
	継続(人)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	延(回)	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	3
立入につなげた件数		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
緊急措置		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

～介護予防計画作成業務～

～介護予防支援業務～

ケアプラン 作成件数	ぼっかぼか	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	直営	30	33	32	34	35	38	40	41	41	35	38	40	437
	委託	47	46	48	50	50	48	45	44	41	39	40	41	539
	合計	77	79	80	84	85	86	85	85	82	74	78	81	976
ケアプラン 作成件数	ウエルシア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	直営	19	21	17	19	18	22	24	23	21	20	23	23	250
	委託	69	70	67	71	64	64	65	58	57	60	63	62	770
	合計	88	91	84	90	82	86	89	81	78	80	86	85	1,020
ケアプラン 作成件数	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	直営	49	54	49	53	53	60	64	64	62	55	61	63	687
	委託	116	116	115	121	114	112	110	102	98	99	103	103	1,309
	合計	165	170	164	174	167	172	174	166	160	154	164	166	1,996

～介護予防ケアマネジメント業務～

ケアプラン 作成件数	ぼっかぼか	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	直営	22	24	24	25	26	25	26	27	28	27	27	26	307
	委託	13	17	19	20	21	21	20	20	19	15	16	13	214
	合計	35	41	43	45	47	46	46	47	47	42	43	39	521
ケアプラン 作成件数	ウエルシア	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	直営	15	13	15	15	15	17	18	17	15	19	20	17	196
	委託	53	52	49	56	57	60	54	56	55	48	46	47	633
	合計	68	65	64	71	72	77	72	73	70	67	66	64	829
ケアプラン 作成件数	合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	直営	37	37	39	40	41	42	44	44	43	46	47	43	503
	委託	66	69	68	76	78	81	74	76	74	63	62	60	847
	合計	103	106	107	116	119	123	118	120	117	109	109	103	1,350

令和2年度 収支決算報告書

(白岡市地域包括支援センターぽっかぽか)

歳入

(単位:円)

項目	金額	説明
受託事業収入	23,088,000	地域包括支援センター運営受託料、認定調査委託料、住宅改修理由書作成料
介護予防支援収入	3,439,179	介護予防プラン作成料、ケアマネジメント費(総合事業)
補助金事業収入	50,000	白岡市新型コロナウイルス感染症対応補助金
サービス活動外収入	8	普通預金利子
計	26,577,187	

歳出

(単位:円)

項目	金額	説明
人件費	23,072,784	
事業費	0	
事務費	2,908,547	事務消耗品費、賃借料、通信運搬費等
減価償却費	0	
サービス活動外支出	0	
計	25,981,331	

(白岡市地域包括支援センターウエルシアハウス)

歳入

(単位:円)

項目	金額	説明
受託事業収入	23,000,000	地域包括支援センター運営受託料
介護予防支援収入	1,996,082	介護予防プラン作成料、ケアマネジメント費(総合事業)
サービス活動外収入	84,000	
計	25,080,082	

歳出

(単位:円)

項目	金額	説明
人件費	20,225,743	
事業費	2,746,174	賃借料、光熱水費、消耗品費、保守料、交通費、車両費
事務費	2,255,160	システム費、通信費、事務用品費、荷造運賃、リース料(複合機・PC・車両・家具)
減価償却費	17,080	
サービス活動外支出	215,345	清掃費、警備費、保険料、雑費
計	25,459,502	

地域包括支援センターの概要

地域包括支援センターは、地域住民が住み慣れた地域で、安心して尊厳ある生活を継続することができるよう、心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助・支援を行うことを目的として、当市では、圏域ごとに1か所ずつの地域包括支援センターを設置しています。

地域包括支援センターには、介護保険法に規定される基準に従い、保健師等、主任介護支援専門員、社会福祉士等の専門職を配置し、職員全員が連携して知識や技能を結集し、「チーム」として総合的に高齢者を支えます。

地域包括支援センターは、地域の高齢者の暮らしや健康などを支援するための総合相談窓口として、その役割はさらに重要度を増してきています。

1 地域包括支援センター実施体制

名 称	白岡市地域包括支援センター ぽっかぽか	白岡市地域包括支援センター ウエルシアハウス
運営主体	社会福祉法人 大樹会	ウエルシア介護サービス株式会社
所在地	白岡市上野田357番地1	白岡市白岡1143番地1
担当圏域	日勝圏域	篠津・大山圏域
担当地域	岡泉、実ヶ谷、千駄野、 小久喜、上野田、下野田、 爪田ヶ谷、太田新井、彦兵衛	篠津、野牛、高岩、新白岡、寺塚、 白岡、白岡東、西、柴山、荒井新田、 下大崎

2 地域包括支援センターの業務内容

(1) 介護予防ケアマネジメント業務

高齢者自身が地域における自立した日常生活を送ることができるよう適切なアセスメントを実施し、利用者の状況を踏まえて設定した目標を達成するために必要な介護予防・生活支援サービス事業等を利用していくケアプランを作成します。

(2) 総合相談支援業務

高齢者が住み慣れた地域で安心してその人らしい生活を継続できるよう、地域における関係者とのネットワークを構築するとともに、高齢者の心身の状態や生活の実態、必要な支援等を幅広く把握し、相談を受け、地域における適切な保健・医療・福祉サービス等の利用につなげる支援をします。

(3) 権利擁護業務

高齢者に対する虐待の防止及び早期発見のための取組や判断能力が低下した高齢者を支援するための相談、成年後見制度についての情報を提供します。

(4) 包括的・継続的マネジメント業務

高齢者が住み慣れた地域で暮らしていけるよう、様々な関係機関とのネットワークづくりを推進するとともに、市内のケアマネジャーに対し、資質の向上を目的とした研修会の実施や困難事例等に関する相談・助言等の支援をします。

(5) 地域ケア会議

包括的・継続的ケアマネジメント業務の効果的な実施のために、介護支援専門員、保健医療及び福祉に関する専門的知識を有する者により構成される「地域ケア会議」を開催します。

また、高齢者一人一人が、その能力に応じて自立した日常生活を営むことができるように支援する「自立支援型地域ケア会議」を開催しています。

(6) その他

ア 在宅医療・介護連携推進事業として、医療機関と介護事業所等の多職種と連携を図ります。

イ 認知症総合支援事業として、認知症初期集中支援チームとの連携、認知症ケアパスの普及、オレンジカフェ（認知症カフェ）の運営支援などを行います。

また、認知症施策を推進するための取組として、認知症高齢者声かけ模擬訓練や認知症サポーター養成講座を開催します。

ウ 生活支援体制整備事業として、生活支援サービスの充実に関する第1層協議体に構成員として参加し、生活支援サービスの構築に向けた協議を関係機関等と連携して行うとともに、第2層生活支援コーディネーターを配置し、事業の推進を図ります。

エ 担当圏域内の高齢者の見守りや配食サービス事業の調査業務を行います。

また、市と連携し、地域包括支援センターの適切な運営に必要な業務を行います。

3 地域包括支援センター業務委託料

令和3年度当初予算 48,000,000円

(24,000,000円×2か所)

令和 3 年度白岡市地域包括支援センターぽっかぽか

事業計画書

1 基本方針

地域包括ケアシステム推進の中核的な機関とし、高齢者が住み慣れた地域で尊厳を保持したその人らしい生活が継続できるよう、地域包括支援センターの機能強化を図り、関連機関のネットワーク連携を行っていきます。生活支援体制整備事業、在宅医療・介護連携推進事業、認知症総合支援事業等、市、高齢課と協働し地域共生社会への構築を図っていきます。

2 介護予防・日常生活支援総合事業

令和 2 年度は新型コロナウイルス感染症拡大予防対策により地域での活動が滞る 1 年となりました。

その中でも包括支援センターの役割を止めることなく、地域を支え合う体制づくりの継続のため、オレンジカフェ・サロン等で関わりのある地域住民に暑中見舞いのハガキを送り安否確認を行う、郵便局・コンビニエンスストア等住民が集まる場所にマスクの作り方・自宅でできる運動等のパンフレットと共に包括支援センターのパンフレットを同封し相談できる場所として配布し啓蒙活動を実施しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の収束がみえないなかにも「新しい生活様式」に添った、場面場面に適した感染症予防対策を講じながら、介護予防（フレイル予防）・オレンジカフェ・サロン等に取り組んでいき、高齢者が集い・参加が行える環境を作り支援してまいります。

また、地域課題解決のため、地域ケア会議を充実させ地域の実情に応じた社会をつくる事で社会資源や住民のニーズ、地域課題を把握し、支えての裾野を拡げて重層的なサービスが提供できるよう、生活支援コーディネーターの配置を行い、生活支援体制整備事業の推進を図ってまいります。

3 包括的支援事業

令和 2 年度の相談件数が 1000 件を超えた事から新型コロナウイルス感染症の影響があったと考えられますが、同時に多くの住民の方に広く包括支援センターが相談、支援の場所として周知できていると自負しております。

令和 3 年度は権利擁護業務の推進とし、社会福祉協議会と連携を行い、成年後見制度利用を促進する事が「白岡市第 2 期地域福祉計画」にも盛り込まれています。包括として各機関と連携を深め権利擁護業務の推進を図ってまいります。

また、包括主催で地域ケア個別会議を開催し、地域ケア会議を充実する事で地域ごとの必要としている支援を知り、生活支援体制整備事業の実施・実行する事に繋がり、住み慣れた地域で安心してその人らしい生活の支援を構築できると考えております。

地域ケア会議を民生委員、その他、関係者や関係機関・関係団体等と構成される機関として、より地域課題解決のための地域ケア推進会議が開催できるよう進めてまいります。

4 その他

令和2年度は相談件数が多く、内容として、日常生活での不安が多数でした。

自粛により、家族と関わる時間が増えた事で、高齢者への体調の変化や認知症の進行、自宅での移動の障害等、気づきがあり包括への相談に繋がり、介護保険サービスの利用、受診等の支援に繋げる事ができました。

今年度も医療・介護の連携を行い、高齢者のみに留まらず家族の支援（80-50 問題等）も視野に入れ、今後の社会保障のあり方である地域共生社会・多元的社会実現に向け、高齢介護課、福祉課等、横とのつながりを強化し総合的に問題解決できる場所としての地域包括支援センターを目指してまいります。

令和3年度白岡市地域包括支援センターウエルシアハウス事業計画書

はじめに

白岡市地域包括支援センターの事業委託3期目の初年度に当たり、令和3年度の事業計画を策定する。

また、今年度は介護保険計画の第8期計画のはじめとして、これまでの地域包括ケアシステムの構築からさらに踏みこんだ「地域共生社会の実現」のための地域づくりが最大の課題となっていることを改めて確認する。

令和2年度は「新型コロナウイルス感染症対策」がすべての生活場面で猛威を振るい、事業活動や高齢者の生活に大きな影響を与えてきた。全国的な「自粛ムード」は、これまで以上に高齢者の移動を制限し、外出の自粛や日常活動の自粛が社会的弱者と言われる人々を心身ともに蝕んでいる。と同時に、私たち自身のモチベーションをも低下させてしまい、確実に事業推進能力を減退させている。

事業受託4年を経過し「地域包括支援センターウエルシアハウス」は、新型コロナウイルス感染対策と地域づくりが最大の課題となった。

これまでの活動を通してウエルシアハウスは、近在の方々には十分に周知されたと考えているが、その守備範囲はまだまだ基盤が弱く、ようやく「いろんな人が集まってくるようになった」という段階である。そのため今回の新型コロナウイルス感染対策に対しても、新たに対策を講じて孤立しがちな高齢者を支えるまでには至っていない。今年の年明け以降「おひとりさまの会」など一部の活動を通じて、可能な範囲での救済策は展開しているが、地域全体に対して有効な対策を提供するところまでにはないと言える。

「住み慣れた地域で住み続け、高齢者自らが担い手となって地域を作っていく」このことが、今後の大きな方向性であり、属性や世代を超えた地域共生社会の実現を目指すことを再確認して本年度の事業計画を策定していく。

なお、今年度から新たに「第2層生活支援コーディネーターの配置」が事業受託のなかに明記され、さらなる地域支援事業の拡大・進展が求められている。可能な限りウエルシアハウスでの取り組みを「地域へ輸出」して、一つでも、ひとりでも「居場所や通いの場」を作ることを目指したい。

この事業計画立案の最中に新たな脅威となっている「変異ウイルス」は、今後も大きな禍根を残しつつ地域社会に「選択と決定」を突き付けてくると予測される。それぞれが住む街で、それぞれの人生の最中で、どのような生き方を選択し日々の生活設計を決定していくか、そのことが制度を超えて一人一人に問われていると実感する。

この困難な時代を同じ地域で生きる者としてささえあい、ひとりでも多くの社会的弱者に「居場所や通いの場」を提供できるよう、改めて初心に帰りつつ「公衆衛生システムの新たな取り組み」を今年度からの事業に取り入れ真摯に臨みたい。

1 基本方針

昨年度の事業計画でも挙げたが「地域の高齢者の見える化」を進めること、が本年度の一つ目の基本方針である。

事業受託から3期目5年目を迎え、事業受託を終える3年後には大きな転機を迎えることとなる。それぞれの職員の今後の身の振り方も含め、いつどのようなかたちで世代交代してもいいように、次に引き継ぐことを前提に「なにが地域の課題なのか」「どのような地域とのかかわりの歴史があるのか」が、手に取るようにわかるデータを蓄積する必要がある。

ひとつひとつのケースを丹念に整理して、「どのような人が、どんなことで困っていて、どうすれば幸せな人生を送れるか」を改めて集約したい。各事例の抱える生活課題（個別のテーマや地域課題など）と支援の経過を、可能な限り電子ファイル化する、日々の相談ケースを件数ではなく「対応時間数」で集計し、質と量を集約するなど、基本データの集約を図りたい。

基本方針の2つ目は、「地域のコミュニティ作り＝ボランティアの組織化」である。これはそのまま令和元年度に取り

組めなかった課題として、再度トライする。

ウエルシアハウスの現状は、人が集まる仕組みは出来ている。これまでのイベント開催型から「仲良しグループ」や「趣味創作型」の自主企画が増えているが、このグループがもう少し「互助」的なつながりに発展することが期待される。そのためには、やはり財政的な裏付けや仕組みが必要となる。第2層生活支援コーディネーターを中心に、改めて地域の人材を掘り起こし地域づくりを進めていきたい。

最後に未だに整備の進んでいない「医療・介護・福祉・生活支援の連携ネットワークの構築」が3つ目の基本方針であるが、これも再録である。

専門職連携の中に地域のボランティアや民生委員などの、地域資源をつなげていくことで「地域互助の仕組み」が見えてくると考えている。

今年度は高齢介護課の協力で「社会福祉協議会との連携・協議の場」がスタートする。新しい在宅支援・ますます進行する少子高齢化社会への対応を見据えながら、一つ一つの事業を丁寧に、かつ迅速に進めていきたいと考えている。

2 介護予防・日常生活支援総合事業

今年度「第2層生活支援コーディネーター」が配置され、いよいよ本格的に「地域支援事業」が進んでいく。要支援1から要介護1までの上昇率を如何に抑えるかが最大の課題である。通所C事業も含め、現状の介護サービスの提供だけでは、この重度化傾向は抑制できないと考えている。やはり要は、「地域の支援体制」に尽きる。

今年度の地域の重点目標を、引き続き白岡・西地区と新白岡地区、柴山・下大崎地区に置き、担当者を決めて取り組む予定である。

3 包括的支援事業

令和元年度の事業計画では「地域包括支援センターの事業について評価を行う」ことを挙げていたが、実施には至らなかった。

改めて①地域包括支援センターの事業評価を通じた機能強化について、②包括的・継続的ケアマネジメント支援業務におけるケアマネジメント支援の具体的な手法について、③市町村及び地域包括支援センターが行う家族介護者支援について、を今年度の事業として取り組みたい。

認知症サポーター養成講座や認知症模擬訓練など一連の事業にも、まだまだ圏域のケアマネジャーや専門職の関わりが必要と考える。地域包括支援センターがその機能を十分に発揮するためには、「包括の応援部隊＝後方支援」が何より必要である。ケアマネジメントの質を上げるためにも、地域連携や相互連携の課題を一つ一つ取り組んでいくことが求められている。

改めて今年度は「包括支援センターの在り方」についての議論を始めたいと考えている。

4 その他

昨年度の計画では、「西地区の「コミュニティセンター」との連携、老人福祉センターやいきいきさぼーとの連携を深め、地域資源を総合的に運用しながら「支える仕組み」を作っていきたい」としていた。西地区、コミュニティセンターやいきいきさぼーと、老人福祉センターなどとの連携を進めている。しかし、まだまだその途上にある。そのため、関係機関の打ち合わせや検討会の開催など、実務者同士の顔の見える関係作りから始める予定である。

権利擁護支援の地域連携ネットワークの構築に向け、中核機関のあり方や設置について、市や社会福祉協議会との連携を深めていきたい。